



2020年2月12日

**博報堂DYメディアパートナーズ、
ブランドストーリーと放送局コンテンツストーリーの融合で
今までにない没入感を生み出す広告手法「Cubic Content」を開発**

株式会社博報堂DYメディアパートナーズ（本社：東京都港区、代表取締役社長：矢嶋弘毅 以下博報堂DYメディアパートナーズ）は、ブランドストーリーと放送局コンテンツストーリーの融合で今までにない没入感を生み出す広告手法「Cubic Content」を開発しました。

「Cubic Content」は、多様化する生活者のタッチポイントに合わせて展開されるコンテンツをもとにした広告体験を設計し提供することで、商品やサービスに対する生活者の共感性を向上させることができる広告手法です。

昨今のデジタルシフトにより、生活者とメディアのタッチポイントが複雑化している中、生活者のタッチポイントをクロスメディアで捉えられるコミュニケーション手法の必要性が高まっておりました。「Cubic Content」は、テレビ、デジタル、ソーシャルコンテンツ、イベントなど、それぞれに関連性を持たせ緻密に絡み合うストーリーを進行させる事でコンテンツに対する没入感を強め、その中に自然に広告訴求を入れ込むことによってトータルでより深いコンテンツ体験をベースとした広告効果の向上を図ることができます。

「Cubic Content」の開発・提供は、メディアチーム、データチーム及び、クリエイティブチームで構成した博報堂DYグループの横断プロジェクトチーム「ACTIVATIONCUBE」が行います。「ACTIVATIONCUBE」は、360°ビジネス展開する「Cubic Content」の企画立案、制作、キャンペーン展開など設計からアクティベーションまでワンストップで実現します。

今回、その最初の取組みとして、2020年2月8日(土)深夜3時からテレビ朝日で放送中の連続ドラマ「鈍色の箱の中で」において、ドラマのストーリーと連動したキャンペーン、インフォマーシャル、ソーシャルなどを複層的に絡める広告展開を実施しています。本取組みにおいては、広告接触データ、ソーシャル投稿データなどアクチュアルデータを活用し、ブランド指標との関係性を紐解くことで、商品やサービスへのプリファレンスを高めるメカニズムを解明します。

博報堂DYメディアパートナーズは、デジタル化に伴うメディアの多様化やコンテンツの多角的な展開、また、生活者のメディア接触行動の変化をふまえ、メディア・コンテンツホルダーとの緊密な連携により、最適かつ効果的なマーケティングコミュニケーション手法の開発と提供に取り組んでまいります。

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社博報堂DYメディアパートナーズ 広報室 山崎 03-6441-9347

■ 360°(サンロクマル)ドラマ「鈍色の箱の中で」概要

放送局：テレビ朝日

放送日時： 2月8日（土）スタート毎週土曜日深夜3時

番組公式サイト：(<https://www.tv-asahi.co.jp/nibihako/>)

番組360°サイト：(<https://nibihako.com/>)

Twitter：(<https://twitter.com/nibihako>)

Instagram：(<https://www.instagram.com/nibihako/>)

このドラマは、LINEマンガにて若年層に絶大な人気のあるコンテンツをテレビ朝日が実写ドラマ化するものです。ドラマの進行とリアルでの出来事が重なるストーリー展開となっており、視聴者はドラマとリアルの世界をシームレスに楽しんでいただける立体的なストーリーを体験出来ます。

テレビ朝日は、地上波放送に加え、特設ストーリーサイト開設、auビデオパスでのドラマ先行配信、テレ朝動画・TVer・AbemaTV・GYAOでの見逃し配信など、コンテンツ360°のマルチ展開を実施します。また、SNSでは、番組公式アカウント以外にも、出演者のInstagramアカウントにてスペシャルコンテンツを配信し、様々なチャンネルでドラマを楽しめる施策が用意されています。

■「ACTIVATIONCUBE」チームロゴ

